

宮の沢まちづくり指針

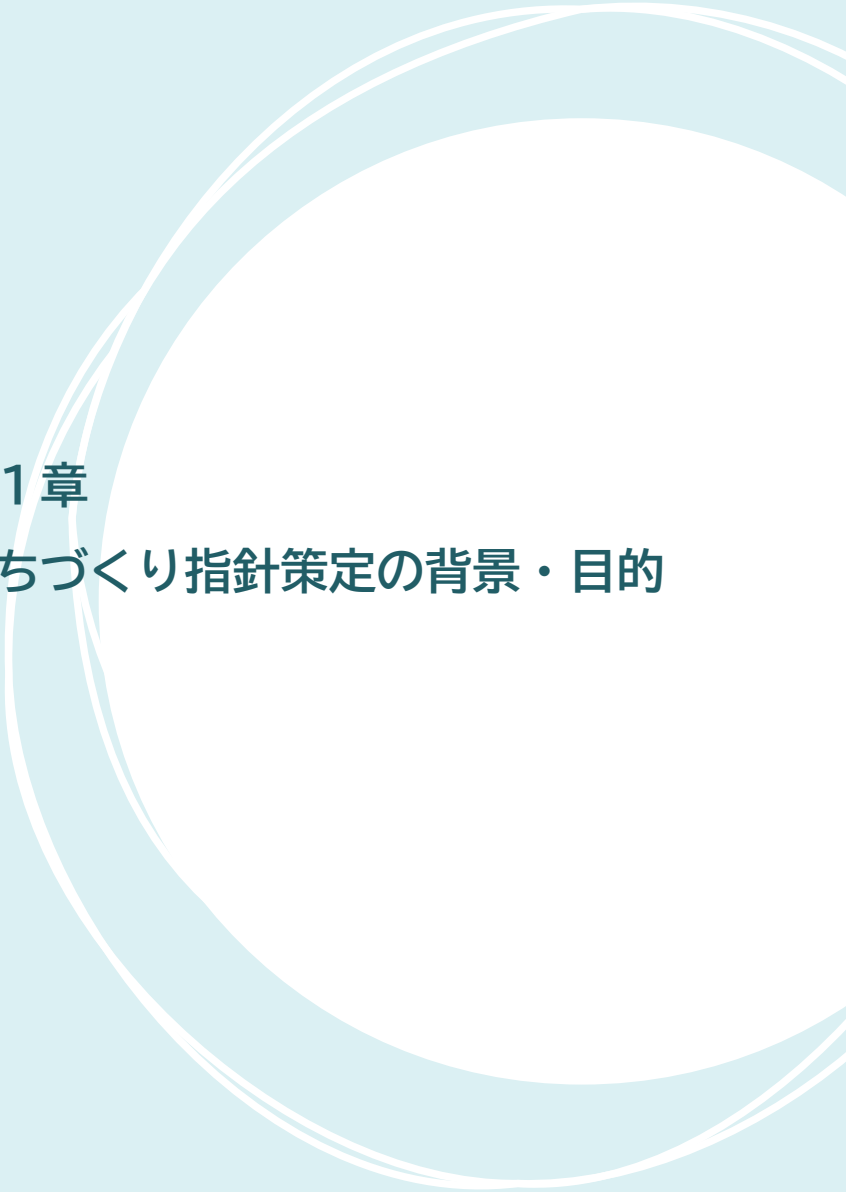


札幌市 まちづくり政策局 都市計画部

令和8年（2026年）7月

目次

第1章	策定の背景・目的	03
1-1	背景と目的	04
1-2	指針の位置付けと対象エリア	05
第2章	宮の沢エリアの現状・まちづくりの考え方	08
2-1	宮の沢エリアの現状	09
2-2	宮の沢エリアの魅力	13
2-3	宮の沢エリアの課題	16
2-4	宮の沢エリアにおけるまちづくりの基本的な考え方	18
第3章	将来像と基本方針	19
3-1	将来像	20
3-2	基本方針	22
3-3	体系	23
第4章	基本方針に基づく取組	25
4-1	基本方針1：広場などの空間に人が集まり、にぎわいや交流が生まれるまち	26
4-2	基本方針2：みどりを身近に感じ、景観住環境を大切にするまち	29
4-3	基本方針3：つながりを感じ、安心して歩ける楽しいにぎわいのあるまち	33
4-4	基本方針4：多様な人、多世代が共存しながら楽しめるまち	36
第5章	まちづくりの推進	38
5-1	まちづくりのネットワーク	39
5-2	まちづくりを推進する情報発信・情報共有	40
第6章	推進に向けたの支援制度等	42
6-1	支援制度等の考え方	43
6-2	まちづくり活動を支える主な支援制度等	43
資料編		45



第1章

まちづくり指針策定の背景・目的

第1章 策定の背景・目的

1-1 背景と目的

札幌市では、第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン※1、第3次札幌市都市計画マスタープラン※2及び第2次札幌市立地適正化計画※3において、将来の人口減少や人口構成の変化を見据え、地下鉄駅周辺などの拠点を中心とした都市機能の集約と、持続可能な都市構造の形成を進めることとしています。

あわせて、都市空間コンセプトとして「Well-Moving City SAPPORO2045ビジョン※4」を掲げ、車中心から人中心へと転換し、誰もが歩きやすく、滞在や交流が生まれる都市空間の形成を目指しています。

宮の沢は、地下鉄東西線の終点である宮の沢駅と隣接するバスターミナルを中心に、公共施設、観光施設、商業施設、教育文化施設、公園や広場、住宅地などが徒歩圏の中に集積する札幌市西部の地域交流拠点※5の一つとして位置付けられています。交通結節点※6となっている地下鉄駅からほど近くに観光施設が立地していることで、地域住民の日常の暮らしの中に、観光などを目的とした来街者の来訪や利用が重なり合うエリアとしても形成されています。

本指針は、こうした上位計画の考え方や宮の沢の特性や地域の声を踏まえ、まちづくりの将来像や基本方針等を定め、これらに基づき、地域住民や地域団体、事業者（企業等）、行政が連携してより魅力的なまちづくりを実現していくことを目的として策定するものです。



生涯学習総合センター（ちえりあ）※7

出典：ちえりあHP



白い恋人パーク

出典：ようこそさっぽろHP

- ※1 第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン：札幌市のまちづくりの指針であり、計画体系では最上位に位置づけられる「総合計画」。目指すべきまちの姿を描いた<ビジョン編>と、主に行政が優先的・集中的に実施することを記載した<戦略編>で構成。
- ※2 第3次札幌市都市計画マスタープラン：札幌の目指すべき都市像の実現に向けた取組の方向性を全市的視点から整理し、都市づくりの総合性・一体性を確保するとともに、今後の協働の都市づくりを推進するために市民・企業・行政等が共有する指針。
- ※3 第2次札幌市立地適正化計画：都市計画マスタープランの一部として、居住機能と都市機能の適切な配置や公共交通を基軸とした都市づくりの推進、防災対策の強化などに取り組むことにより、将来にわたって誰もが住みやすく、活力にあふれた都市として発展していくことを目指す計画。
- ※4 Well-Moving City SAPPORO（ウェル・ムービング・シティ・サッポロ）2045ビジョン：第3次札幌市都市計画マスタープランに基づく都市空間コンセプトであり、「人が主役のまちづくり」を基本に、歩行をはじめとした人の移動や滞在を重視した都市空間の形成を目指す考え方。
- ※5 地域交流拠点：都市計画マスタープランで定める拠点の区分。交通結節点である主要な地下鉄・JR駅の周辺で、後背圏を含めた地域の生活を支える拠点としての役割を担う地域のほか、区役所を中心に生活利便機能が集積するなどして区の拠点としての役割を担う。地下鉄宮の沢駅、琴似駅など市内17か所を設定。
- ※6 交通結節点：様々な交通手段（徒歩、自動車、バス、鉄道など）を相互に連絡させる場所。
- ※7 ちえりあ：札幌市生涯学習総合センターの愛称。市民の生涯学習を推進する「生涯学習センター」、若者が集う「宮の沢若者活動センター」、教職員の研修や教育相談を行う「教育センター」、リサイクルへの理解啓発を進める「リサイクルプラザ」の4つの施設からなる複合公共施設。

第1章 まちづくり指針策定の背景・目的

1-2 指針の位置付けと対象エリア

(1) 位置付け・役割

本指針は、第2次まちづくり戦略ビジョンや第3次札幌市都市計画マスタープランなどの上位計画に即し、宮の沢における今後のまちづくりを進めるにあたり、まちづくりの考え方や方向性を地域住民等と札幌市が共有するためのものです。

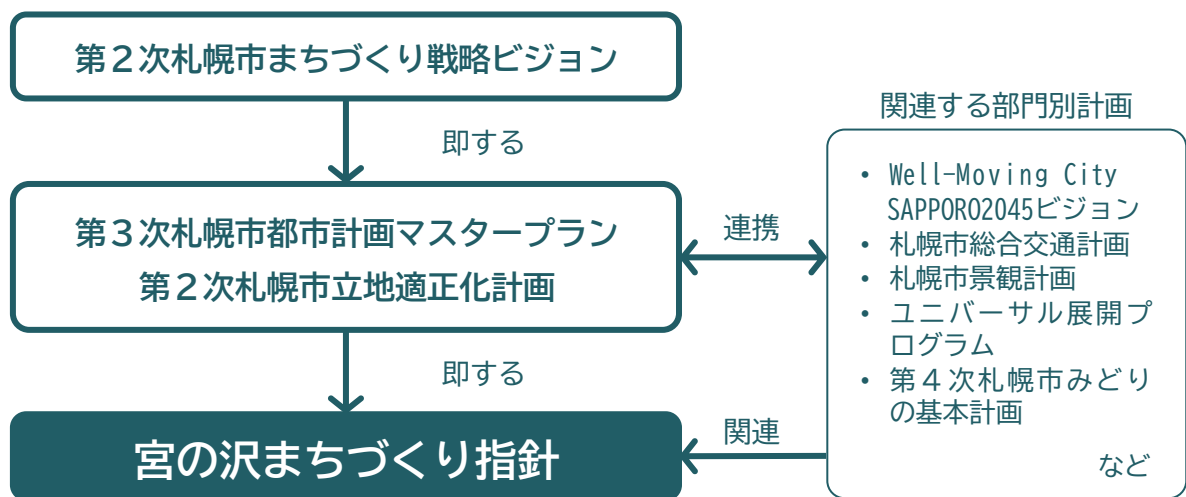


図 本指針の位置付け

本指針の役割は以下のように、行政による施策や事業の検討、地域住民・団体や事業者（企業等）による活動の企画、社会実験やイベントの実施などの際の根拠等として活用することを想定しています。

- 地域団体や事業者（企業等）が活動を企画するとき
- 行政が施策や事業を検討するとき
- 社会実験やイベントを実施する際の共通認識をつくる時

図 本指針の役割

なお、本指針は策定後も地域の状況や取組の進展を勘案しながら、必要に応じて適宜見直しを行なっていきます。

第1章 まちづくり指針策定の背景・目的

(2) 対象エリア

本指針の対象エリア（以下、宮の沢エリア）は、第2次札幌市立地適正化計画で定める都市機能誘導区域※8を踏まえながら、地域住民の活動や来街者の利用などを考慮し、交通結節点である地下鉄宮の沢駅と住民の憩いの場である宮の沢ふれあい公園の中間地点から徒歩圏（概ね半径1km程度）を基本とします。

このエリアは、「日常的に暮らす地域住民」と「観光などで訪れる来街者」が交わる可能性を持つ範囲であり、まちの魅力を面的に高めていくうえで重要なエリアです。

なお、今後のまちづくりの進捗にあわせて、新たな区域設定等を行う可能性があります。

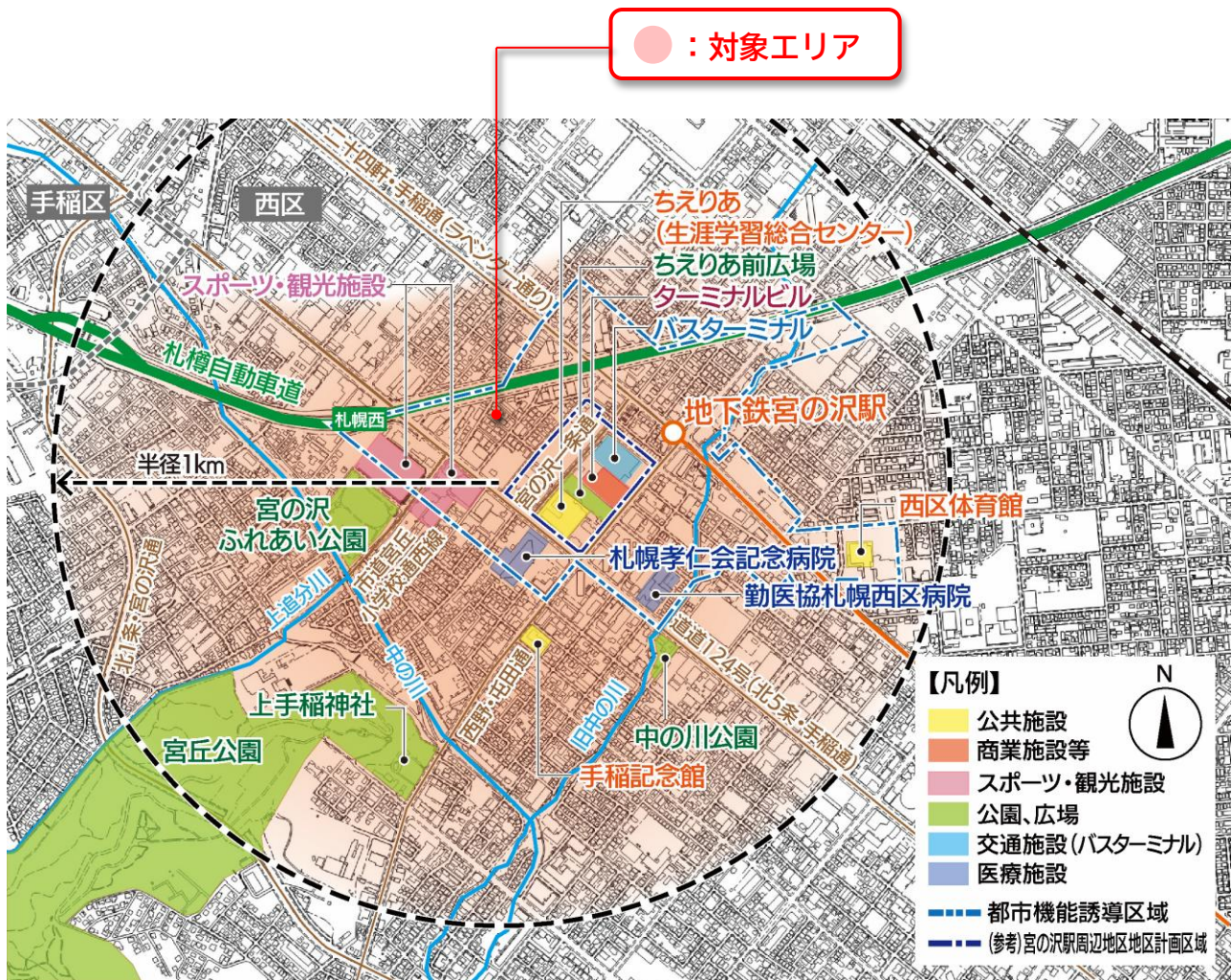


図 本指針の対象エリア

※8 都市機能誘導区域：都市の拠点となるエリアにおいて、医療・福祉・子育て支援・商業等の都市機能を集積させることで、効率的なサービスの提供を実現し、市民の利便性と福祉の向上を図ることを目的として、都市機能の立地を誘導する区域。

コラム① 地域交流拠点って、なんだろう？ ～都市計画マスタープランにおける位置づけ～

「地域交流拠点」とは、主要な駅や区役所の周りなど、日々の暮らしの拠点となるとともに、周辺エリアから人が集まり、地域の豊かな生活を支える役割を果たす場所です。

札幌市内には全部で17の地域交流拠点がありますが、当然、成り立ちや地域のもつ資源等、それぞれ特性が異なります。

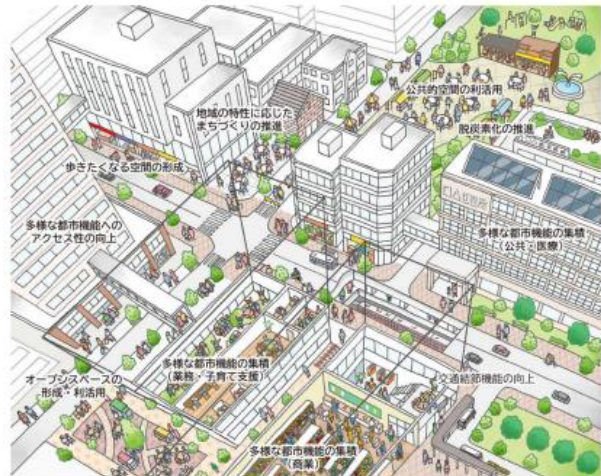
そこで、上位計画である第3次札幌市都市計画マスタープランでは、地域のまちづくりの機運や、民間開発の動向などを踏まえながら、それぞれの地域の特性に応じて、都市機能の維持・集積や多様な交流空間の形成、拠点の回遊性向上などの取組を進めることとしています。

さらに、当面の取組の方向性として、17拠点を3つに整理しており、宮の沢は、「地域の動向を踏まえて魅力向上を図る拠点」に分類されています。

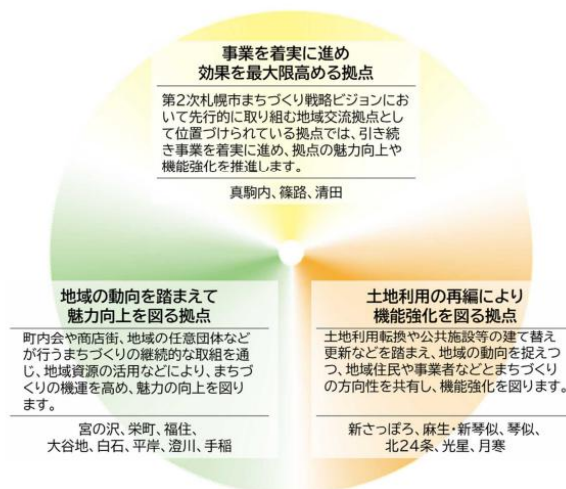
「地域の動向を踏まえて魅力向上を図る拠点」では、地域の機運を高めていくことが重要であり、まさに、このまちづくり指針を策定することで、地域の皆さんとまちづくりの考え方を共有し、地域の機運を高め、宮の沢エリアの魅力向上を図っていきたいと考えています。



地域交流拠点箇所



地域交流拠点における主要な取組イメージ



地域交流拠点における当面の取組の方向性

市HP：第3次札幌市都市計画マスタープラン

<https://www.city.sapporo.jp/keikaku/master/index.html>